

淑徳大学

アーカイブズ・ニュース

NEWSLETTER of SHUKUTOKU UNIVERSITY ARCHIVES

第8号 平成25年(2013)12月16日発行



— 第2回龍澤祭の風景（昭和42年11月） —

昭和40年(1965)9月27日に開催された学内発表会は、翌年以降キャンパスのある龍澤山大巖寺にちなんで「龍澤祭」と名付けられた。昭和42年11月2日～5日に開催された第2回龍澤祭のテーマは「胎動から躍動へ さあふみ出すのだ!」で、5日には体育祭と後夜祭が行われた。体育祭はその後独立して春季と秋季の年2回開催されるようになり、教職員と学生が一体となって親睦を図る恒例行事となった。写真には子供連れの姿も目立ち、和やかさの漂う学園祭の様子がうかがわれる。

「一吟天地心」 私と吟道部

茅野 隆徳（第15期卒）
淑徳大学吟道部第17代部長

淑徳大学吟道部部詩

長谷川良信
作

大乘の志念千古の願い

菩薩の浩海白龍棲む

探らんと欲す龍澤漂流の間

檀林鶉飛び寧馨躍る

逍遙す三春提塘の砌

行行落花を踏み転吟詠す

覚岸遠から非漫に詠進せん

落日鐘声梵音に和す

部詩の人

淑徳大学吟道部は、伝承によれば大学開学の夜、学生寮にて一期生親睦の宴中、当時学寮の担当であった長谷川匡俊理事長が朗々と吟じた事に発して我が淑徳大学に吟道部が誕生したという。以後、岳心流師範として部員の指導にあたって頂きました。

ここに掲げた吟道部の部詩は学祖長谷川良信先生が作られ、また今回淑徳大学アーカイブズに収めた部旗の見事な文字は、前理事長長谷川良昭先生に依るものと、改めて我が吟道部と大学が密接な縁で結ばれて来たことを感じずにはいられない。

部詩の第一節「大乘の志念千古の願い」はまさに学祖長谷川良信先生の中に生きる大乘仏教の思想であり、「成仏国土成就衆生」の意味する「人格形成」を掲げ、続く「菩薩の浩海白龍棲む」「探らんと欲す龍澤漂流の間」は学園祭の名称にもなり、懐かしい大巖寺の山号でもある龍澤の文字が郷愁を誘う。「檀林」とは学僧の学問所すなわち我々の大学であろう。開学当時は「鶉飛び」と東京湾に生息する鶉の棲家であったこの地を鮮明に表している。

律詩の後半は、私は何故か在学中目にした本館正面玄関に鎮座していた両手を合わせ歩く姿の善財童子の姿が浮かんでくる。真っ白な姿は一瞬目を引くが、この善財童子は「仏性」を求める我々学生と重なる姿で、東海道五十三次に由来するように五十三人の教えを受け仏になるという青年修行者である。

「逍遙す…行く行く…転…」まさに師を求め指南を受ける姿であろう。「覚岸遠から非」覚岸とは此岸から彼岸への修練、研鑽の道筋である。結句「落日鐘声」とは終ぞ聞くことは無かった大巖寺梵鐘の音を思い出させ、「梵音」は求めを邁進する学生に向けた激励であったろう。

これを後押ししていただける文章が、昭和60年（1985）足立叡現学長から顧問を引きついで金子保名誉教授の吟道部発表大会での挨拶文で、「部詩の人たれ」と熱く語っている。



新装した吟道部旗

挨拶

昭和38年10月、長谷川良信先生は淑徳大学創建を志して、「悠々天意蓬窓間、模索年有業未成、聞幽雲上擊鐸声、皎月満地照白道」と建設の猛志を詩に託している。このように、詩は志の熟したところに生まれ、それは熟柿のごとく満ち切った状態である。それは輝であり、そして気である。それゆえにこそ、「吟詠は気を養ふの道である」といわれる。品性を高め、心魂の修練に資するのである。しかし、道は遠く、「業未だ成らず」といわなければならない。それでも日々、大巖寺の擊鐸の声に励まされ、吟詠の道を進むのである。ここで擊鐸とは学祖の声であり、皎月とは学祖の志である。どんなに道が暗くとも、皎月に照らされて、われわれは日々精進することができる。いま一度「部詩の人」となることに努めなければならない。(以下略)

(「第21回淑徳大学吟道部 吟詠発表大会パンフレット」より)

この文章からも察するように、学祖は志を立て突き進む時、吟詠は安息であると共に心の糧であったに違いないと思う。吟道部の部員として、その思いに通ずる吟詠に出会えたことは稀なる縁としか思えない。

ただ正直私自身、このような思いに至るのは幾重にも重なる邂逅の時を経てのこと、当時を振り返ると詩吟たるや、吟詠とは、何も理解しないまま時を過ごしてしまった気がするが、今回淑徳大学アーカイブズの開設に伴い吟道部関連の物品、資料をまとめるに際して、帰郷の段ボール箱の中から当時の吟道部部則、各年の議案書などが陽の目を見ることになり、先輩諸氏が学祖から引き継いだ熱い想いに触れることも出来た。その一例として、「吟道部部則」の冒頭部分を引用しておく。

吟道部部則

主旨

わが吟道部は本学建学の基礎的精神たる大乘慈悲の信念確立を目指し、専ら古今名詩一篇の一吟一詠を同胞相結縁して修するところにある。思うに我等同胞は現代の複雑多岐なる世相、世態に処し、徒らに世俗の風潮に迎合することなく、真に社会と人間との福祉を建設すべく、この重大なる使命を感じずにはいられない。

はからずも我々が詩を愛しすすんで朗詠するは、偉大なる先徳の人格に触れ以って情操を豊かにし、志気を鼓舞せんがためであり、わけて不断の研究、修練は自己の学問的識見を高めると同時にきたるべき明日、不退転の磐石なる精神力を体得せしめるであろう

吟道部三指針

- 一 吟の技術的向上
- 一 学問の追及
- 一 精神的向上

(「淑徳大学吟道部部則」より)

栄枯盛衰 部旗流転

時を重ねること二十有年、大学が四半世紀を迎えるころ吟道部の部室のドアは開く事は無かったようだ。時代の流れと言えはひと言ですんでしまうが、私自身も卒業から10年も過ぎ、仕事や結婚の時期に重なり自然と距離を置いた時期だった。ただ比較的私たちの吟道部の同期はまとまりが良く、機会をつくっては親交を温めていたので、部員の連絡も密にとれていた。

そこに後輩の五味・笹川両氏から吟道部の部室が取り壊される寸前に、両氏の判断で部旗と部誌、それと



吟詠発表大会での茅野氏

部印を持ち出したとの連絡が入った。二人は吟道部への愛着の念からの苦肉の行動だったが、無断で大学の施設から備品を持ち出したことの恐怖に震えている様子だった。

この部旗の存在が同胞を引き合わせ、何度か虫干しと称し大巖寺に集まっては昔を懐かしむ口実になっていた。しかし数を重ねるたびにこの部旗の行く末が心配になっていたのも事実でした。

詩吟との再開

私と詩吟との再会は淑徳大学との再会でもあった。当時大学の声掛けで各県ごとに淑徳大学同窓会の設立の動きが起り、比較的早い時期に長野県同窓会はスタートを切ることができた。その同窓会の席で卒業間もない28期生の福島さんから「茅野さんは、詩吟をやっていたんですか」と声をかけられ、吟道部など露ほども知らない彼女が何故と思ったが、お母さんが詩吟の教室を開いているのでとのお誘いを頂いた。

当時私は、長野県に戻り地元の福祉施設で働いて20年、いろんな意味で閉塞感を感じていた時に、隣接する市が新しい施設を立ち上げるので手伝ってほしいとの依頼に身の程も顧みず社会福祉法人を設立、障がい施設を立ち上げた直後だった。

先に記した学祖の崇高なまでの熱く強い志には及ばないが、自ら選んだ道とは言え孤独感とやり場のない葛藤にもがいている時期だったので、あまり考えずに灯りに引き寄せられた虫のように20年を経てまた詩吟の世界に入って行った。もとより学生時代から吟道部には居たけれど、詩吟は熱の入らない落ちこぼれ組の私は、仕事から離れ居心地のいい教室に行くことが楽しみで、相変わらず詩吟には集中できない私だった。

こんな私が厄年を過ぎてからライフワークとして意識し始めたのは、吟詠コンクールに出場することが契機だった。舞台で行う詩心と和音の調和の真剣勝負。あの二分間の緊張と豊かな感情表現は到達できない探求の芸術だと感じた時、まさに「覚岸遠から非漫に詠進せん」の境地である。しかし日本武道館の舞台に2度立つも未だ手中に収めることが出来ない目標である。

淑水記念館開設

息抜きの教室がコンクールの為の修練になった時懐かしく思い出されたのが、在部中何回か行われた学生競吟大会である。当時昭和50年代関東地区の大学だけでも20校を超える大学に、詩吟部、吟詠部が列挙しその勢いを競った。その象徴が、今回本学の建学の精神を実現するための諸機関が入った淑水記念館にある淑徳大学アーカイブズに収めた部旗である。



第14回関東学生新人吟詠発表大会（昭和54年6月 於國學院大學）

大会ともなればいち早く会場に掲げる部旗は荘厳を極めた。

私が在籍していた当時、部員減少が囁かれる中、関東学生詩吟連盟に「千葉に淑徳在り」と言われるほどその勢いは顕著であったと自負している。

その重荷を背負って、新調の時は定かでは無いが紺のビロードに金糸の刺繍は他にどの大学にも類はなく

ひと際目立った。しかし半世紀を経て金糸は乱れ、色あせたこの部旗を思うと当時の先輩諸氏と支えていただいた多くの関係者の方のご苦勞を思い、部を継承出来なかった申し訳なさが胸を塞いだ。

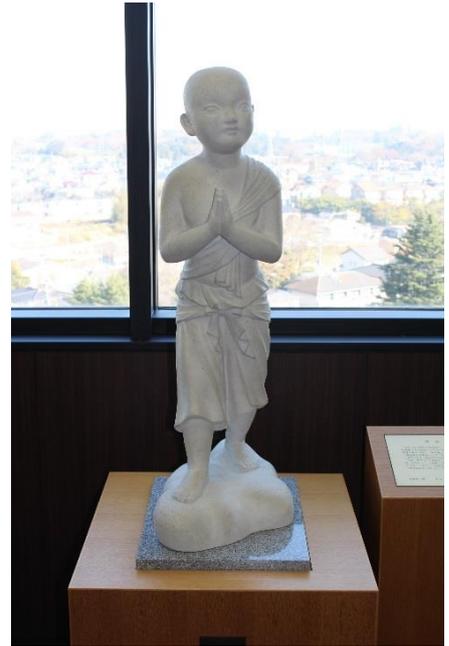
この思いは私だけでなく同期や後輩たちも同じであった。その中でいつも私と思いを同じくしてきてくれた同期の福島氏は部旗の修復に奔走してくれた。途中、修復業者が見つからず、尚且つ高額だった為に断念を考えたが、彼が最後まで誠意をもって修復再生を果たして今に至った。感謝に絶えない思いである。

これも廃部を機に行く当てのない備品を案じていた私たちにとって、淑徳大学アーカイブズは備品や資料の収集の場だけでなく、私たちの想いまでも預かって頂いたと思っています。

今こうして、私自身と吟道部を振り返る機会を頂いて胸に込み上げるのは、昨年この修復した部旗を学長室に届けた際、外出から戻られた長谷川先生がまず学長室に鎮座されたあの善財童子の御姿に静かに手を合わせる姿を拝見した時、私たち卒業生をも含む学生をこうして守って頂いているのだという慈悲の念を感じずにはいられませんでした。

吟道部の縁あった多くの想いととも安住の地として淑徳大学アーカイブズに部旗以下関係品をお納めいたします。そしていつの日か、長谷川良信先生作の「大乘の志念千古の願い」が響く日を夢見ております。

(社会福祉法人ちいさがた福社会介護老人施設フォーレスト 総合施設長)



学長室の善財童子

淑徳大学創立 50 周年記念シリーズ企画 1

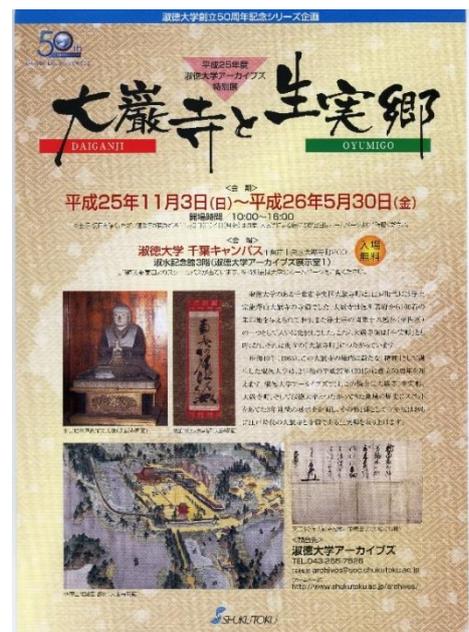
淑徳大学アーカイブズ平成 25 年度特別展「大巖寺と生実郷」開催

淑徳大学アーカイブズでは、第 47 回龍澤祭にあわせ本年 11 月 3 日（日）よりアーカイブズ展示室 1 において平成 25 年度特別展「大巖寺と生実郷」を開催しています。

昭和 40 年（1965）に社会福祉学部社会福祉学科の 1 学部 1 学科で開設した淑徳大学は、学祖長谷川良信が浄土宗龍澤山大巖寺の住職を務めていたこともあり、その境内地の提供を受けて校地としました。

江戸時代、大巖寺は浄土宗の関東十八檀林（学問所）の一つとして発展し、徳川幕府からは 100 石の朱印地（寺領）を与えられていました。その地は「生実郷（おゆみごう）」と呼ばれ、現在の大巖寺町がおおよそその範囲でした。

このような地域の歴史の上に新たな檀林として開学した淑徳大学は、平成 27 年（2015）に創立 50 周年を迎えます。



淑徳大学アーカイブズでは、この機に地域と大学をめぐる歴史を見つめ直すとともに、大学のこれからのあり方について思いをいたすことを目的として、本展を企画いたしました。

展示は第1章「大巖寺の創建」、第2章「徳川家康と大巖寺」、第3章「大巖寺の諸相」、第4章「生実郷の人びと」、第5章「大巖寺と周辺の村むら」、第6章「描かれた大巖寺と生実郷」の各コーナーからなっています。



第1章では、大巖寺の開山道誉貞把が修行の途次、生実城主原胤栄との縁から大巖寺を創建するにいたる経緯を取り上げ、道誉上人座像や、江戸時代宝永5年（1708）に書かれた「大巖寺起立来由並歴代住職伝」、道誉に帰依し道誉を招いて大巖寺を開いた当人もいべき原胤栄夫人座像、第2世安誉が制定した修行僧の規約「別時之間法度」などのパネルや、原胤栄が大巖寺に寄進した寺領の安堵状（天正5年・1577）の現物など、いずれも貴重な資料を展示しています。

第2章では、徳川幕府を開いた徳川家康と大巖寺の関係を示す資料を展示しています。大巖寺の開創に深くかかわった原氏は、小田原北条氏と結んで豊臣秀吉に対抗しましたが、第2世安誉はこの状況に危機感を持ち、豊臣方の徳川家康に対し、手紙と贈り物をもって原家と大巖寺の安寧を執りなすよう依頼しました。これに対し徳川家康は天正18年（1590）5月23日、大巖寺へ贈り物の礼状を認めるとともに、当時生実地域の守備にあっていた豊臣方の武将市橋兵吉長勝に宛てて、大巖寺の保護を依頼した書状を出します。本展ではこの書状2通の現物を展示していますが、この他関東では最も古いとされる天正18年7月28日付大巖寺宛家康の寺領安堵状や、家康が大巖寺第3世雄誉に与えたとされる銀茶碗の現物、家康の家臣大久保長安・原田種雄が作成した大巖寺の寺領目録（パネル）も貴重な資料といえます。また、大巖寺は徳川幕府から100石の朱印地を拝領しますが、寛永3年（1636）の朱印状写や、文化13年（1816）に第38世昭誉が寄附した朱印状を納める箱なども展示しています。

第3章は「①大巖寺と末寺」「②檀林大巖寺」「③大巖寺住職の書蹟」「④鶉の森」からなっています。「①大巖寺と末寺」では、江戸時代の「本末制度」のもとでの本寺としての大巖寺の様子や末寺との関係を取り上げ、「②檀林大巖寺」では、浄土宗の関東十八檀林の一つである大巖寺における入寺・退寺の状況や、勉学のために大巖寺が木活字で出版した「大巖寺版」と呼ばれる書籍のうち、慶長16年（1611）の「法事讃記」と同18年「浄土宗要集」の現物を展示しています。「③大巖寺住職の書蹟」では、大巖寺が所蔵する歴代住職の書蹟類から、開山道誉直筆の名号、第2世安誉直筆の一円相、第3世雄誉直筆の一枚起請文、第15世祐天直筆の名号をパネルで紹介しています。ところで、大巖寺の寺域には昔より鶉や鷺が多く生息しており、「鶉の森」と呼ばれていました。鶉の森は現在も地名として残っていますが、鶉自体は昭和47年（1972）工業開発や都市化の影響から姿を消してしまいました。「④鶉の森」では往時の「鶉の森」の姿を写真で紹介しています。

第4章は、大巖寺の寺領であった生実郷（大巖寺村）と、そこに住む人々を対象にしています。大巖寺の寺領は、天正19年（1591）の検地（土地の所持者・面積・生産力の調査）によって108石余りと認定され、これをもとに100石の朱印地が設定されましたが、その際の検地帳の現物は貴重な資料

といえます。

大巖寺に対しては永禄 12 年 (1569) に原胤栄の「禁札」が、天正 18 年 (1590) に徳川家康の「禁制」がそれぞれ与えられ、大巖寺門前は「殺生禁断」の地とされました。このため、生実郷の人びとは、幕府から求められた「鷹場」(将軍が鷹を使って狩猟する場所)の負担などを、「殺生禁断」を理由として拒否するなど、家康の権威を最大限に利用しました。ここでは幕府に対する負担免除願いの資料も展示しています。また、生実郷の領主として大巖寺が領民たちに示した生活の規範「定書」(宝暦 10 年・1760)は、大巖寺への礼儀の徹底や門前の美観維持、質素な生活や年貢完納の優先、賭け事の禁止など、21 か条にわたる詳細なものです。この他、生実郷に酒造を行っていた者がいたことを示す資料や、江戸時代の戸籍ともいべき「宗門改帳」(文化 9 年・1812)なども紹介しています。

第 5 章では、大巖寺・生実郷と周辺の村との関係を示す資料を展示しています。「殺生禁断」の地大巖寺領内で鷲を捕らえた者を「断髪」した上「過料」(罰金)を課そうとした事例や、生実郷に奉公に来ていた者が傷害事件を起こした事例、大巖寺の祠堂金(貸付金)の返済をめぐる一件や、他村の者が大挙して生実郷に入り込み、領民に危害を加え寺領を荒らそうとした一件など、興味深い資料を紹介しています。

第 6 章は、大巖寺や生実郷を描いた絵図類をパネルで紹介しています。展示している中では宝暦 8 年 (1785) の「生実郷絵図」がもっとも古いものですが、一頭斎源信友筆「大巖寺境内図」や明治 2 年 (1869) の「龍澤山総絵図」などには、生実郷の人びとが住んでいた住居や大巖寺に入寺した学僧が生活する学寮が並んでいる様子が詳しく描かれており、往時の境内の姿を偲ぶことができます。

本展は平成 26 年 (2014) 5 月 30 日までの開催ですが、同時に 3 年にわたる「淑徳大学創立 50 周年記念シリーズ企画」の第 1 弾でもあります。来年の平成 26 度は「シリーズ企画 2」として、大巖寺町の近代の歴史を取り上げ、淑徳大学が創立 50 周年を迎える平成 27 年度には、シリーズ企画のまとめとして「淑徳大学 50 年のあゆみ」展を開催する予定です。

埼玉キャンパスに「学祖コーナー」開設



学祖コーナー



学祖コーナーのリーフレット

本年9月13日(金)、埼玉キャンパス図書館1階ラーニングcommonsの一面に展示「学祖コーナー」を設置しました。千葉キャンパスでは淑水記念館の4階で、平成22年(2010)に開催した「学祖長谷川良信先生生誕120周年記念展」を引き続き常設展として展示していますが、他のキャンパスにはこれまで学祖に関する展示スペースはありませんでした。このため、本年6月に埼玉キャンパス3号館1階の玄関ホールに「学祖コーナー」を設け、展示リーフレット「学祖長谷川良信の生涯」を作成・配布を始めましたが、本コーナーはその展示を内容も新たに図書館に移したものです。

展示内容は、学祖の生涯を関連写真を添えて簡潔に紹介したパネルや画像、学祖が宗教大学(現大正大学)の本科3年生の夏に、50日にわたって静岡・愛知・岐阜・滋賀・大阪・奈良・三重の各県へ社会事業施設の視察旅行に赴いた足跡を紹介した図、それに学祖の肖像写真や学祖筆の「感恩奉仕」の額などを展示しています。また、東日本大震災の際に淑徳大学が行った宮城県石巻市雄勝地区での支援活動を記録した画像も見ることができます。本コーナーには椅子やテーブル、関連書籍が置かれ、学生が気軽に学祖の生涯に触れることができますようになっています。

今後は、順次千葉第2キャンパスと東京キャンパスにも同様の展示コーナーを設置する予定です。ご期待ください。

「淑徳大学アーカイブズ史料講読会」のご案内

— 参加者を募集しています —

淑徳大学アーカイブズでは、地域との連携を図り、地元の方々との交流を深めるため、「史料講読会」を開催しています。現在は当アーカイブズが所蔵している明治から大正期にかけての高瀬真卿の日記を読み進めています。今後は当アーカイブズが所蔵する史料はもとより、江戸時代から近代にいたる史料を幅広く読みながら、当時の社会や地域について学んでいこうと思っています。

会は毎月第2・第4金曜日の午前10時から午後3時頃まで、淑水記念館で開催しています。どなたでも参加できますし、その日の都合に合わせて途中から参加いただくこともできます。初心者の方も大歓迎ですので、くずし字が読めるようになりたい方や昔のことに興味のある方はぜひ当アーカイブズまでご連絡下さい。皆さんで楽しく史料を読んでいければと思います。

淑徳大学アーカイブズ日誌 (2013年7月～2013年11月)

- 7月1日 科研費平成25年度第1回アーカイブズ研究会開催(於池袋サテライトキャンパス)。
- 7月5日 福田会育児院史研究会出席(於東京児童福祉研究所九段研究所)。
- 7月9日 平成24年度特別展の資料提供者平山秀夫氏の弟平山春雄氏とそのお孫さん展示見学。
- 7月10日 淑徳大学50年史編纂委員会開催(於淑徳大学池袋サテライトキャンパス)。
- 7月11日 全国大学史資料協議会東日本部会第85回研究会参加(於昭和館)。
- 7月12日 第43回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。

- 7月12日 吉田すみ氏・石津明彦氏「吉田久一展」見学。
- 7月16日～26日 教授会議事録及び教授会関係資料のマイクロフィルム撮影作業（業者委託）。
- 7月20日 千葉・関東地域社会福祉史研究会第8回（2013年度）研究総会出席（於淑徳短期大学）。
- 7月26日 第44回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 7月29日 東京都町田市の小島日記研究会の会員および平成24年度特別展の資料提供者大高栄一氏ら7名特別展および福祉機器展見学。
- 7月29日 科研費平成25年度第2回アーカイブズ研究会開催（於ルノアール池袋サンシャイン60通り店）。
- 7月31日 淑徳大学アーカイブズ・ニュース』第7号発行。
- 7月31日 トリトンクラブ（淑徳大学卒業生の山本恒夫先生を囲む会）40年史編集委員会より『トリトンクラブ40年史』寄贈。
- 8月7日 教授会議事録及び教授会関係資料のマイクロフィルム撮影機材撤収（業者委託）。
- 8月9日 第45回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 8月9日 今年度の特別展準備のため千葉県立中央図書館調査。
- 8月12日 科研費平成25年度第3回アーカイブズ研究会開催（於ルノアール池袋サンシャイン60通り店）。
- 8月13日 東京都町田市の小島資料館より借用の大高善兵衛関係資料返却。
- 8月20日 千葉県山武市の大高栄一氏と同県匝瑳市の平山秀夫氏に借用資料返却。
- 8月22日 教授会議事録及び教授会関係資料のマイクロフィルム納品。
- 8月23日 第46回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 8月26日 科研費平成25年度第4回アーカイブズ研究会開催。マハヤナ学園撫子園事務長宮林太郎氏への文書管理に関する聞き取り調査（実施於マハヤナ学園撫子園）。
- 8月27日 福田会育児院史研究会出席（於東京児童福祉研究所九段研究所）。
- 8月28日 今年度の特別展の準備のため大巖寺所蔵資料調査。
- 8月30日 千葉県私立大学学生支援研究協議会一行が学祖展・福祉機器展・アーカイブズ展見学。
- 9月5日 今年度の特別展のため千葉市立郷土博物館所蔵資料調査。
- 9月5日 看護栄養学部久代和加子教授の「老年看護学実習Ⅰ」の受講生103名が学祖展・福祉機器展見学。
- 9月10日 学祖長谷川良信の書2点を修復。1点は軸装、1点を額装。
- 9月13日 第47回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 9月13日 埼玉キャンパスの図書館に「学祖展示コーナー」開設。
- 9月16日 「平成25年度高瀬真卿関係資料の研究」第1回共同研究会出席（於池袋サテライトキャンパス）。
- 9月17日 資料寄贈者前澤明氏へ『春草』のコピーと写真データを渡す。同氏より学祖長谷川良信が竹に認めたという書寄贈。
- 9月19日 千葉キャンパス職員西塚洋氏より香川栄養学園創立80周年記念関係資料寄贈。
- 9月27日 第48回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 9月27日 千葉キャンパス職員菅谷厚子氏より学生がまとめた「大巖寺周辺地域の歴史と民俗」（昭和60年）寄贈。
- 9月30日 平成25年度第1回淑徳大学アーカイブズ運営委員会開催（於学園本部理事長室）。
- 10月8日 千葉・関東地域社会福祉史研究会運営委員会出席（於池袋サテライトキャンパス）。
- 10月8日・9日 今年度の特別展のため大巖寺所蔵資料撮影作業（業者委託）。
- 10月9日・10日 全国大学史資料協議会2013年度総会・全国研究会参加（於明治大学駿河台キャンパス）。

- 10月10日 今年度の特別展のため千葉市立郷土博物館で資料撮影。
- 10月11日 第49回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 10月23日 出版文化社と50年史編纂に関する打ち合わせ。
- 10月24日 今年度の特別展のため大巖寺から資料をアーカイブズ展示室に搬入。
- 10月31日 長野県の茅野隆徳氏より吟道部関係の資料寄贈。
- 11月3日 平成25年度淑徳大学アーカイブズ特別展「大巖寺と生実郷」開催（～2014年5月30日）。
- 11月8日 第50回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 11月8日 出版文化社と50年史編纂における写真管理に関する打ち合わせ。
- 11月13日 出版文化社と今後の50年史編纂スケジュール等について打ち合わせ。
- 11月14日・15日 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会第39回全国（東京）大会参加（於学習院大学創立百周年記念会館）。
- 11月16日 地域社会福祉史研究会連絡協議会第13回研究交流会参加（於淑徳短期大学）。
- 11月21日 千葉日報「大巖寺と生実郷」展取材のため来室。
- 11月22日 第51回淑徳大学アーカイブズ史料講読会開催。
- 11月26日 科研費の作業で撮影のためマハヤナ学園所蔵資料を業者に引渡し。
- 11月28日 追手門学院大学創立50周年記念講演会「建学の精神と自校教育」参加（於追手門学院大学）。

淑徳大学アーカイブズでは、大学及び大乘淑徳学園に関係する資料を広く収集しています。

- ①大学及び学園が発行した新聞・雑誌・広報誌・年報・報告書等。
- ②学生時代の写真・講義ノート・教科書・手帳・日記・記念品・記章・各種書類等。
- ③学生時代に使用していたもの。
- ④大学及び学園のサークルや研究会の活動を示すもの。

上記以外の物でも結構ですので、お気づきのものがあればお気軽にご連絡下さい。

また、大学及び学園の各部署や学部学科、機関で保存期間の満了した文書、あるいは廃棄の対象となる文書が発生した場合は、大学アーカイブズまでご一報下さい。



淑徳大学

アーカイブズ・ニュース 第8号

NEWSLETTER of SHUKUTOKU UNIVERSITY ARCHIVES

発行日 2013年12月16日

編集・発行 淑徳大学アーカイブズ
〒260-8701

千葉県千葉市中央区大巖寺町200

TEL 043-265-7526（直通）

e-mail archives@soc.shukutoku.ac.jp